# みんなで育てる「たいしの子」vol.17（特別編）

**ボーク重子さん**
「非認知能力育児のパイオニア」として知られ、BYBS コーチングメソッドを展開する。日本と世界９か国に約200人の認定コーチを持ち、国内外のメディアで取り上げられています。

非認知能力育児のパイオニアとして有名なボーク重子さんが町を表敬訪問され、田中町長・中道教育長との対談が行われました。

**田中町長**
「本日はようこそ太子町にお越し頂きました。町が取り組んでいます幼小中一貫教育、その中でも非認知能力の取り組みを中心に、町に興味をもって頂き本当にありがとうございます。また、その分野で非常に活躍されているボーク重子さんをお迎えでき、本当に対談を楽しみにしていました。」

**中道教育長**
「昨年度、町が発表をしました大阪府主催のフォーラムがきっかけとなって、今回のご縁へとつながりました。太子町の第一印象はいかがですか。」

**ボーク重子さん**
「果物畑がたくさんあって、ミカンやブドウも見ました。ワインも作ってると聞いて、素敵な町ですね。」

**田中町長**
「そうなんです。今が旬のシャインマスカットもありますし、太子町は自然と歴史が豊かです。聖徳太子のお墓があり、竹内街道という古い道も残っています。そういった歴史的な遺産が町の名前に由来しています。また、近くの駅からは電車に乗ると約30分で大阪市内に行け、子育てに適したところです。そこで、子育て施策にしっかりと取り組んでいるところです。」

## ●非認知能力の育成と教育方針

**田中町長**
「非認知能力ということであれば、私もこの町出身です。もう50年ほど前になりますが、中学生の時から業間活動などを取り組んでいまして、みんなでフォークダンスをしたり 、特色のある取り組みをしていました。結局、今思えば、その当時から、勉強だけではなくて、そういったこと（非認知能力を伸ばす取り組み）にも取り組んできたと思っています。」

**ボーク重子さん**
「様々な体験をとおして学力だけではなく、どんな大人になるか、社会にどう貢献するかを子どもたちに考えさせることはとても重要です。」

## ●意図をもった大人の子どもとの関わりが子どもの非認知能力を伸ばす！

**中道教育長**
「ボーク重子さんは福島県出身と聞きましたが、どのような幼少期を過ごされたのですか。」

**ボーク重子さん**
「畑や田んぼがたくさんあって、大人たちも地域全体で子どもを育てようという雰囲気でした。自転車の練習で田んぼに落っこちても、誰も怒らなくて、助けてくれるんです。地域に支えられて育った感じが強かったです。

お金がなくてもできる体験がたくさんありました。畑仕事や配達を手伝ったり、地域の人たちと一緒に体験することが多く、本当に貴重な体験をたくさんさせてもらっていました。普通に生活しているだけで、様々な体験ができました。

そういう環境の中で、自然に非認知能力が育まれていたと思います。ただ、それだけではなくて、行政や学校も能動的に体験を提供する仕組みが必要です。それを太子町の学校ではギミック（意図的な仕掛け）という形で取り組んでいるところが、とても素敵ですし、大切です。」

**田中町長**
「私も、20年間、小学生にバレーボールを教えています。バレーボールを教え始めた当初は、よく『世の中の役に立つ人になれ』って言ってました。でも最近は、それに加えて『これから生きていくための力を養え』とも言うようになりました。特に今の時代、いろんな子どもたちがいますから前向きに生きる力が必要です。
「特に、子どもたちにはその力を鍛える機会を与えてあげることが必要だと思います。もちろん、放っておいて自然に育つ部分もありますが、やはり意識的に体験させることが重要です。体験をつうじて、子どもたちが自分で考えて行動できる力を育むことができます。だから、そうした機会をしっかり提供していきたいです。」

**ボーク重子さん**
「すごく重要ですね。非常に大事なことです。私も幼少期に勝手に体験してたわけではなくて、周りの大人たちがそういう機会を与えてくれました。結局、大人が関わってくれるからこそ、いろんな体験ができたのです。だから、そういう意味では大人の介入が大事です。『介入』という言葉はちょっと強いかもしれないけど。太子町的に言えば、ギミック（意図的な仕掛け）です。ギミックがあって、それがあることで非認知能力が引き出され体験が成り立ちます。これがすごく重要です。とても共感します。共感マックスです。」
「日本では昔から夢や目標を持つことが重要とされていますが、それだけでなく『人の役に立つ』視点も大切です。学校でのキャリア教育では『自分がどうなりたいか』が問われますが、将来存在しない職業もあるかもしれません。本当に大事なのは『どんな大人になりたいか』を考えることで、そこから逆算して仕事を選ぶ方が良いと思います。例えば、ぶどうの栽培などが太子町の特産品ですが、それが誰のためになっているのか、どう役立っているのかを考えることで、子どもたちは「自分はどんな風に人の役に立ちたいか」を考えるようになります。そして、その答えに導く仕事を探すというプロセスです。もし「YouTuber になりたい」という子どもがいたら、それが社会にどのように貢献するのかを考えることが重要です。単にお金を稼ぐためやカッコいいからという理由だけではなく、その活動が他の人にどのような恩恵を与えるかを考えることが大切です。」

**田中町長**
「やりたいことを決められることは良いことだけれど、決めるというのは難しい面もありますね。若い時に、すぐに目標を見つけ、それに向かって進む子もいますが、すぐに自分のやりたいことを見つけるのはなかなか難しいことです。自分で見つけなければならないと言われると、逆に難しさを感じることもあります。だから、狭い視野で考えるのではなく、広い視点から入って、徐々に焦点を絞っていく方が見つけやすいと思います。」

**ボーク重子さん**
「確かにそうです。やってみなければ分からないこともありますよね、人生は。どこに住んでいようと、私たちは生き抜いていかなければならないですし、文化や時代が変わっても、その中でどう生きるかというのは変わらないテーマです。自己決定というのは責任をともないますが、それが素晴らしいことです。自分で決めたことだからこそ、人のせいにできない。それが重要だと思います。だから、自分で決めることができる力、これこそが普遍的な力です。知識や常識は時代と共に変わりますが、それを支える非認知能力の部分、特に人間としての基礎的な力というのは変わらないです。」

## ●未来への希望

**中道教育長**
「特に０歳～10歳ぐらいの子育てが大事だとボーク重子さんの著書の中でもおっしゃっています。幼少期の関わりというのは非常に重要なポイントになりますね。」

**ボーク重子さん**
「そうです。今では「愛着形成」などがよく話題になります。子どもの自己肯定感は自己認識が前提となります。例えば、赤ちゃんが自分を鏡で認識できるのは約１歳半からです。それ以降、大人の接し方が子どもの自己認識に大きな影響を与えます。笑顔で接するのか、否定的な言葉をかけるのかによって、子どもが自分をどう捉えるかが変わります。『３歳までが大事』と言われますが、それですべてが決まるわけではありません。子育てで最も大切なのは、親がリラックスすることです。正しくやる必要はなく、その時にできる最善を尽くせば十分です。」

**田中町長**
「なるほど、お母さんやお父さんの時間もしっかりと確保することが大事ですね。」

**ボーク重子さん**
「太子町には自然と歴史、そして教育が素晴らしい形で融合しています。子どもたちがこの町で豊かな経験を積み、将来に向けて成長していく姿が見えるようです。これからの発展が非常に楽しみです。次回訪れる際には、さらに成長した町の姿を見られるのを楽しみにしています。」

**田中町長**
「本日は太子町へ訪問くださり、また、貴重な話を聞くことができる場をありがとうございました。」

◆問合せ　教育総務課　☎98-5533